

メディアとことば研究会ではこの度、学習院大学の遠藤薫先生をお迎えし、下記の要領で第48回メディアとことば研究会特別講演会を開催いたします。

遠藤薫先生は社会学的視座からメディア研究をされており、『間メディア社会における〈ジャーナリズム〉』（編著、東京電機大学出版局、2014年）、『メディアは大震災・原発事故をどう語ったか』（東京電機大学出版局、2012年）など、多くの著編書があります。

東日本大震災から間もなく6年、今振り返る東日本大震災とメディアについてお話しいたします。貴重な機会となりますので、ご興味がおありの方は是非お越しください。

日時：2017年3月17日（金）15:00-17:00（受付開始 14:30）

場所：学習院大学目白キャンパス東2号館2階201教室

<http://www.univ.gakushuin.ac.jp/campusmap.html>

講演者：遠藤薫氏（学習院大学 教授）

題目：「今振り返る、東日本大震災とメディア

－ドキュメンタリー番組における〈被災者〉と〈報道者〉－」

要旨：

あの震災からもう6年が経った。しかし、多くの人たちが、いまでも、元の生活を取り戻せずにいる。直接的な被害を受けなかった者たちもまた、あの揺れやテレビ画面に映し出される状況を身体的感覚として記憶している。私は、2012年3月に、『メディアは大震災・原発事故をどう語ったか—報道・ネット・ドキュメンタリーを検証する』（東京電機大学出版局）を上梓した。そこではさまざまな角度から震災直後の「メディアに現れた〈語り〉」について分析を行った。その中の一つとして取りあげたのが、「ドキュメンタリー」であり、そこに現れた〈被災者〉－〈報道者〉の間の関係性、および〈語り〉と地域社会の関係に着目した。今回の講演では、大震災・原発事故に関してその後制作されたドキュメンタリー作品が、その〈語り〉をいかに時系列的に変化させているか、あるいは変化していないか。そこから何が明らかになるか、などについて論じたい。

当日参加も大歓迎ですが、準備の都合上、

ご参加希望の方は medialalala@gmail.com に3月15日（水）までに

1. お名前
2. ご所属

をお知らせいただけましたら有り難く思います。

当日お会いできるのを楽しみにお待ちしております。

メディアとことば世話人一同